

由義寺跡シンポジウム2024

令和6年12月22日（日）八尾市役所本館6階大会議室

# 軟弱地盤に塔を建てる

－ 史跡由義寺跡第6次発掘調査成果報告 －

八尾市観光・文化財課 河村 卓

# ゆげでら 由義寺について

●奈良時代後半（8世紀後半）に称徳天皇によって造営が進められた寺院

●『続日本紀』の由義寺塔建設に関する記述

『続日本紀』宝亀元年（770）4月5日条

詔して、由義寺の塔の造営にあたった諸司の人や雑工ら九五人对し、功勞の輕重に従って、位階を加え賜った。【現代語訳】（出典：『新版八尾市史古代 - 中世史料編 - 』）

●僧 道鏡の出身氏族である弓削氏の氏寺〈弓削寺〉をゆげでら由義宮・西京の造営に合わせて改称、発展したと考えられる

○平成29年の発掘調査で塔の基壇を発見

○平成30年2月13日に国史跡に指定され、以降、史跡整備に向けた発掘調査を実施

○6次にわたる調査で塔基壇や基壇周辺の状況が明らかに



由義寺跡 七重塔イメージ画

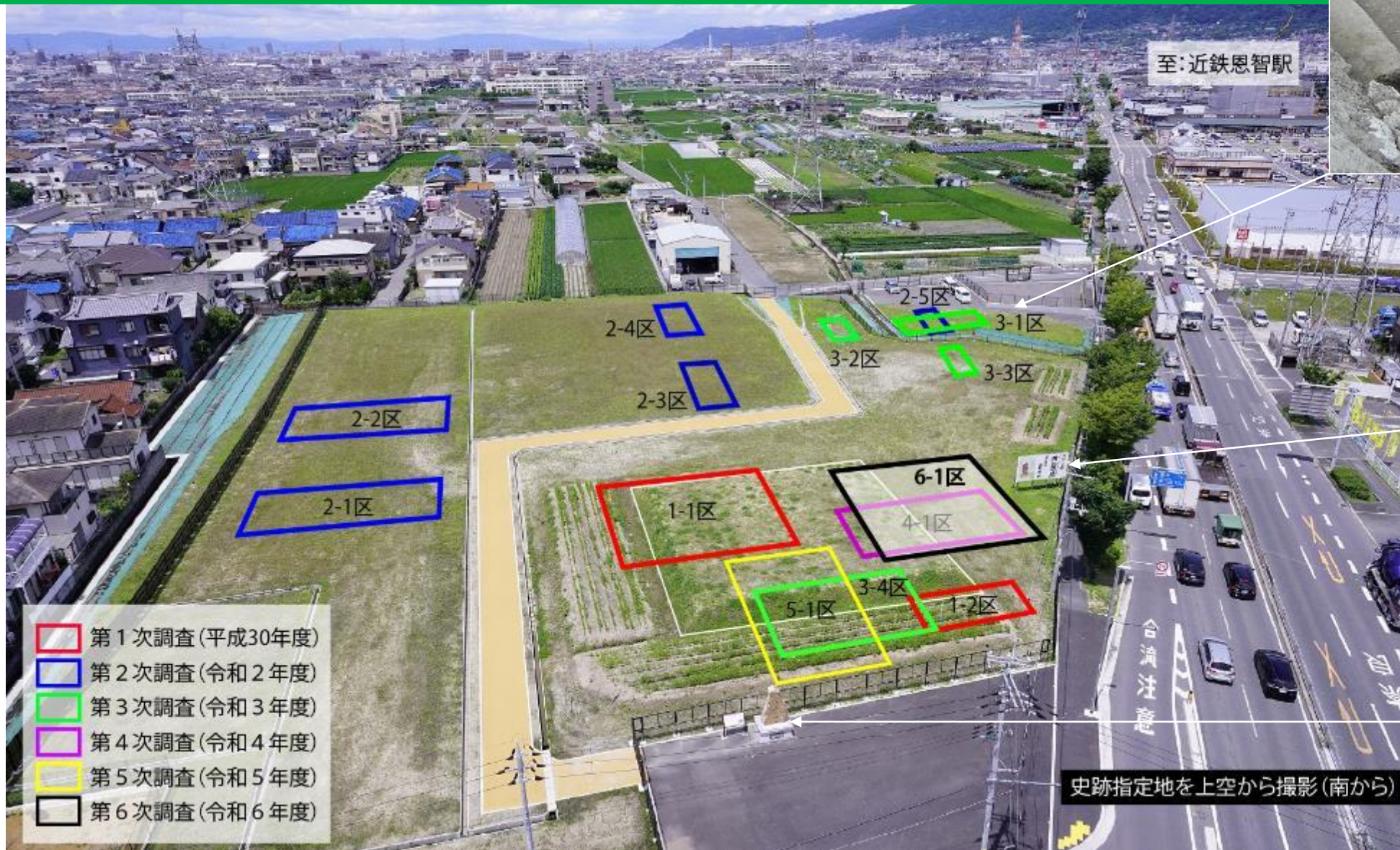
# 由義寺跡の位置

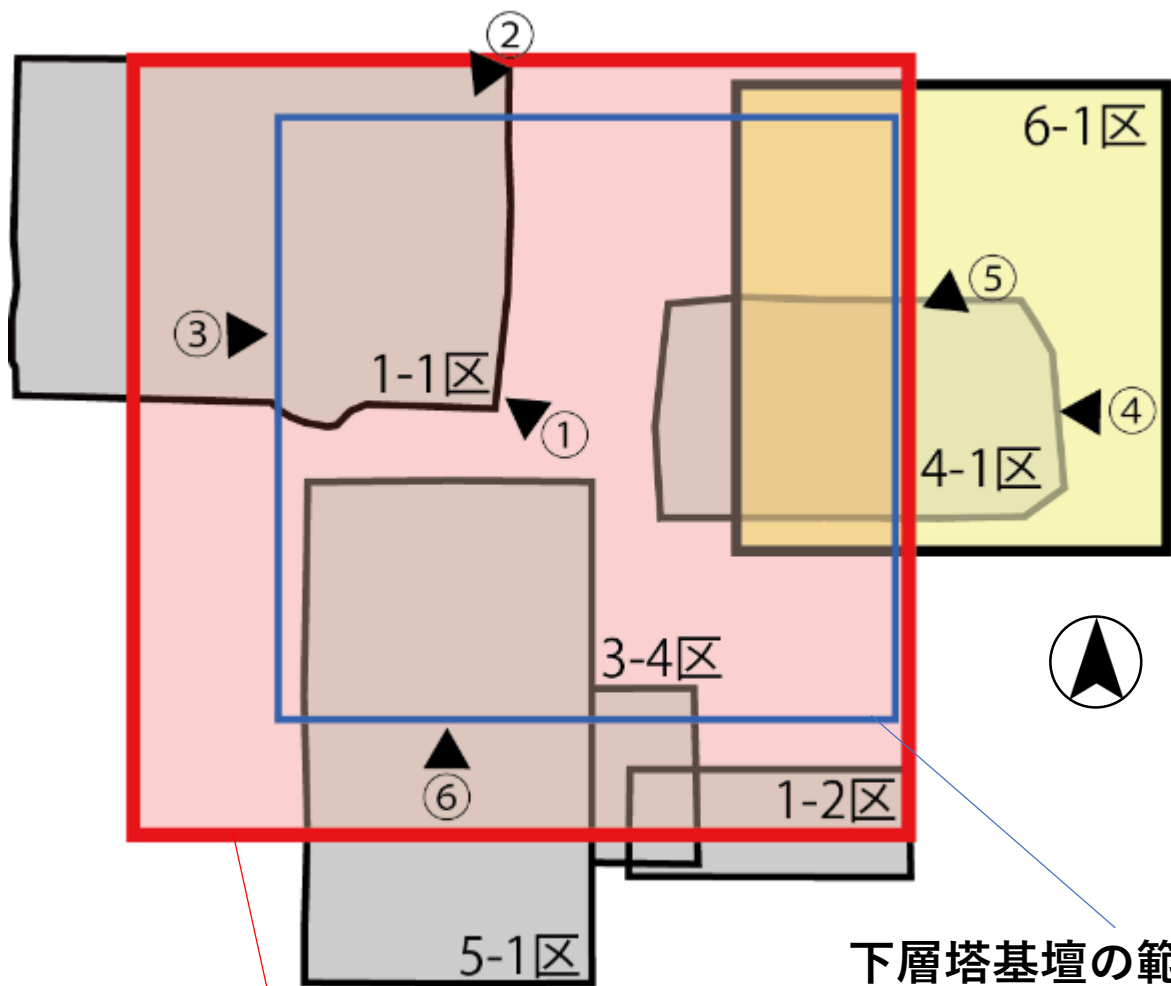


- 八尾市東弓削を中心とした地域に位置する
- 生駒山地西側を流れる旧大和川が二俣で東西に分流した長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上にある



# 史跡整備に向けた調査





上層塔（由義寺塔）基壇の範囲  
一辺21.6m

下層塔基壇の範囲  
一辺約17m



①上層塔基壇北西隅



②下層塔基壇北辺



③下層塔基壇西辺



④上層塔基壇東辺



⑤下層塔基壇東辺



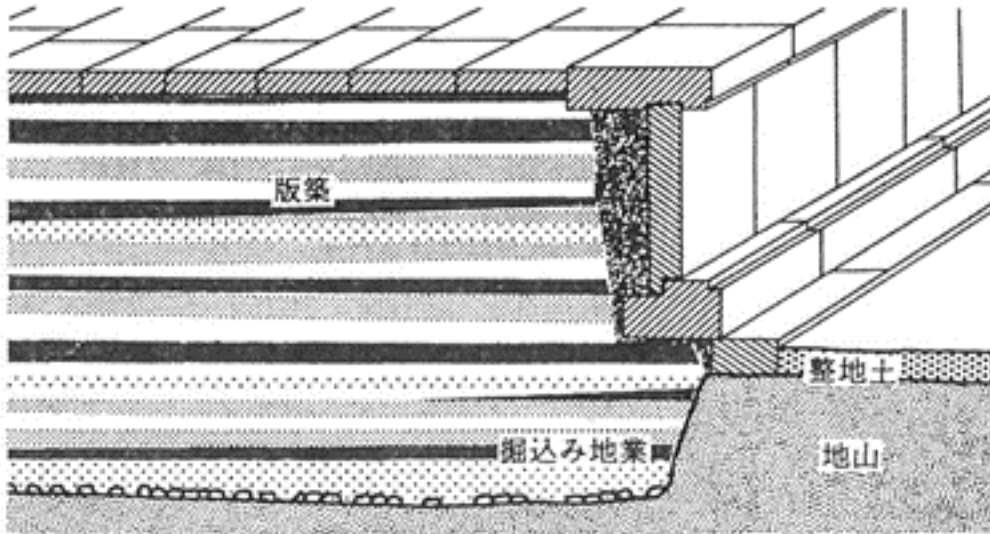
建築部材



⑥下層塔基壇南辺

## 塔基壇の既往調査（史跡整備に伴う調査のみ）

# 下層塔基壇の確認



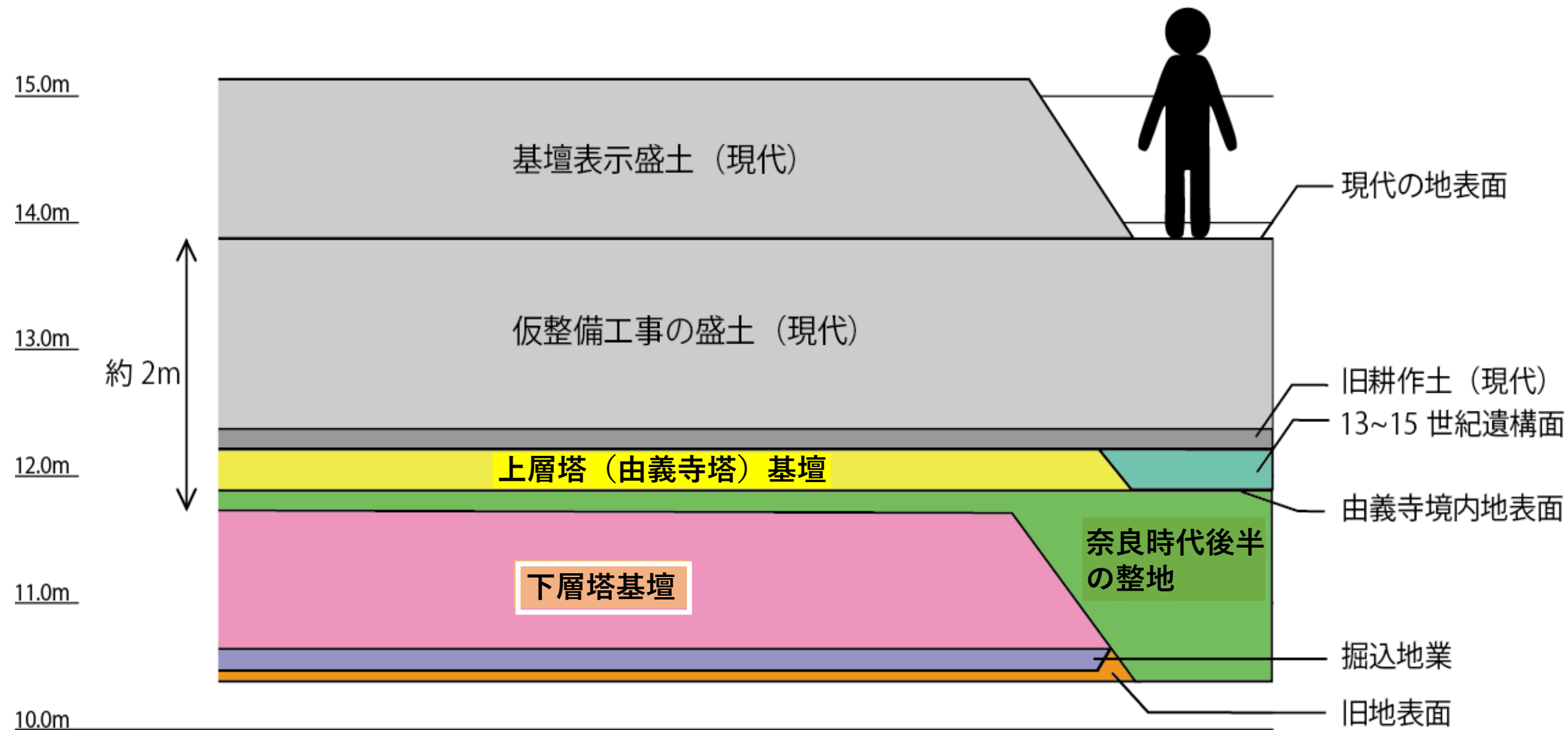
基壇模式図

(出典：奈良文化財研究所 2012 『奈良文化財研究所学報92：文化財論叢4』)

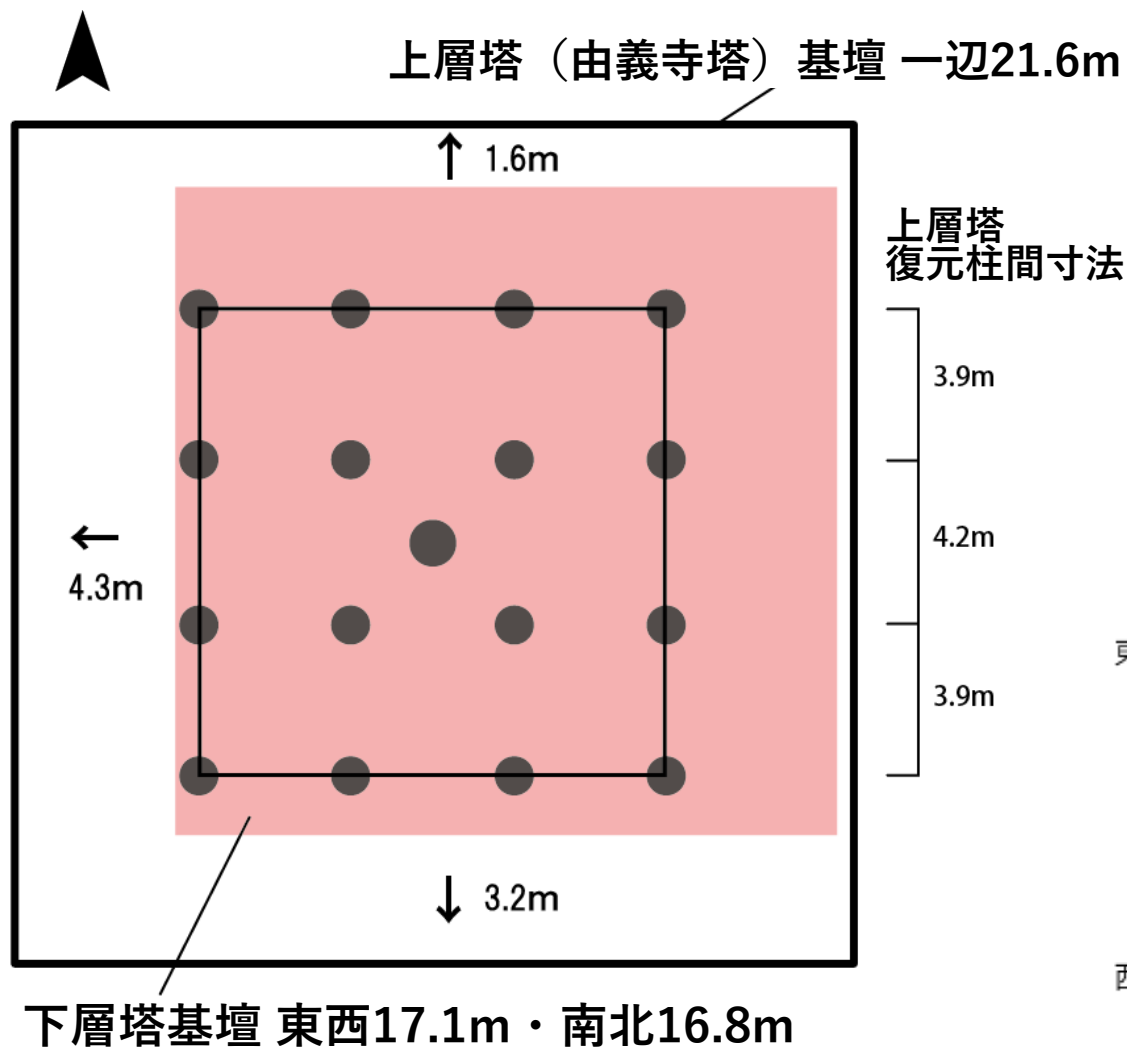


4-1区  
(東から)

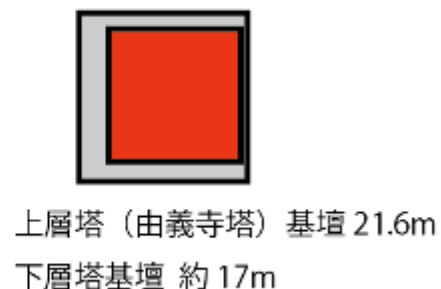
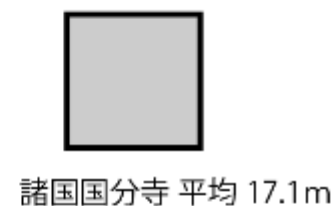
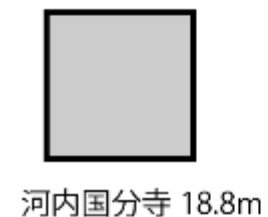
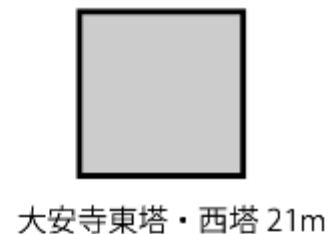
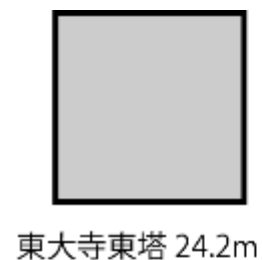
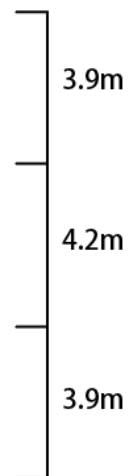
基壇の下部に花崗岩を埋め込み、砂と粘質の土を薄く交互に積み上げていく



下層塔基壇が見つかった高さ



上層塔  
復元柱間寸法



## 上層・下層塔基壇の位置関係

## 基壇規模の比較

（箱崎和久2018「東弓削遺跡発見の基壇遺構について」『大阪府八尾市所在 由義寺跡 遺構確認調査報告書 - 塔基壇の調査 - 』（八尾市文化財調査報告82）を参考に作図）

# 下層塔基壇外側で出土した凝灰岩切石



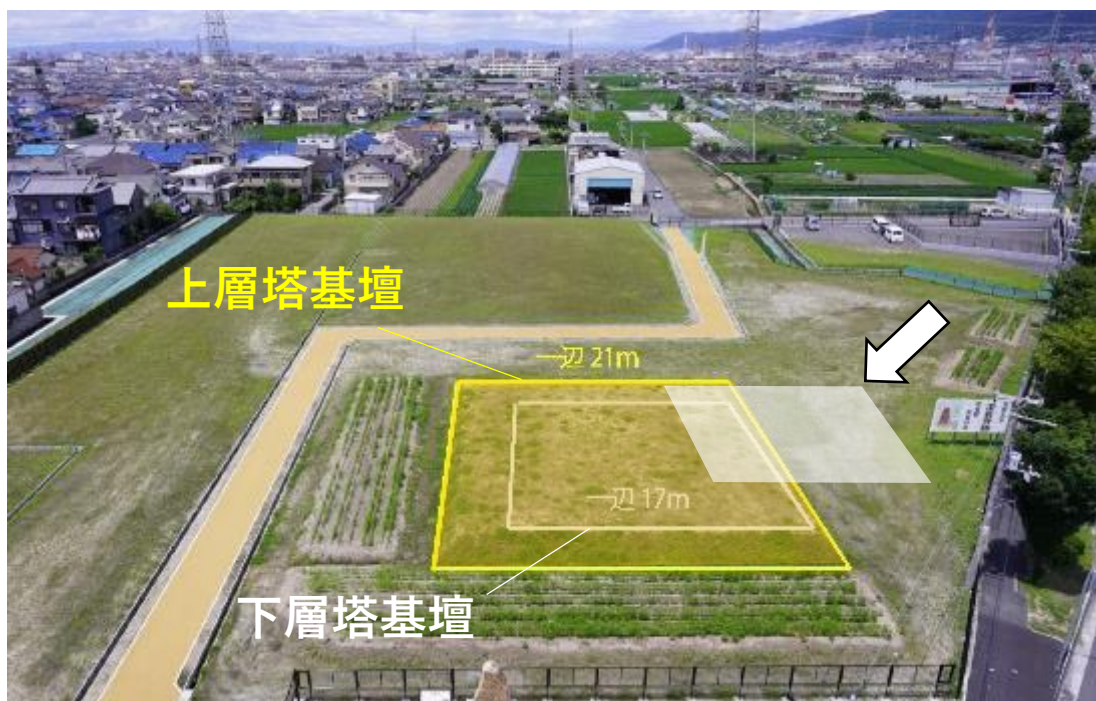
## (課題)

- 基壇外装材とみられる凝灰岩切石が多量に出土
- まだ使用できる部材を投棄した理由が不明

# 第6次調査の成果

## (調査目的)

- 上層塔基壇の残存状況の確認
- 下層塔基壇の残存状況の確認（東階段の確認）
- 凝灰岩切石の広がり、性格把握

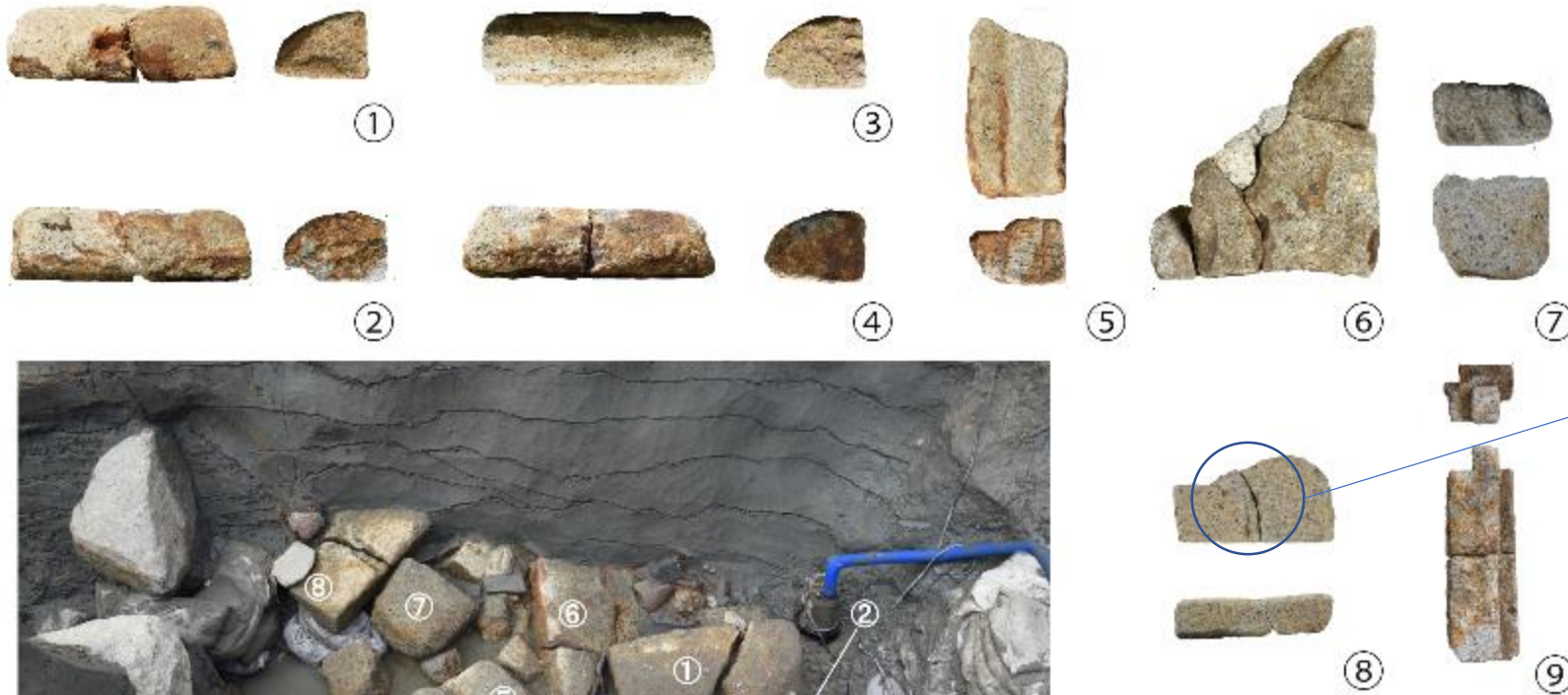


調査地



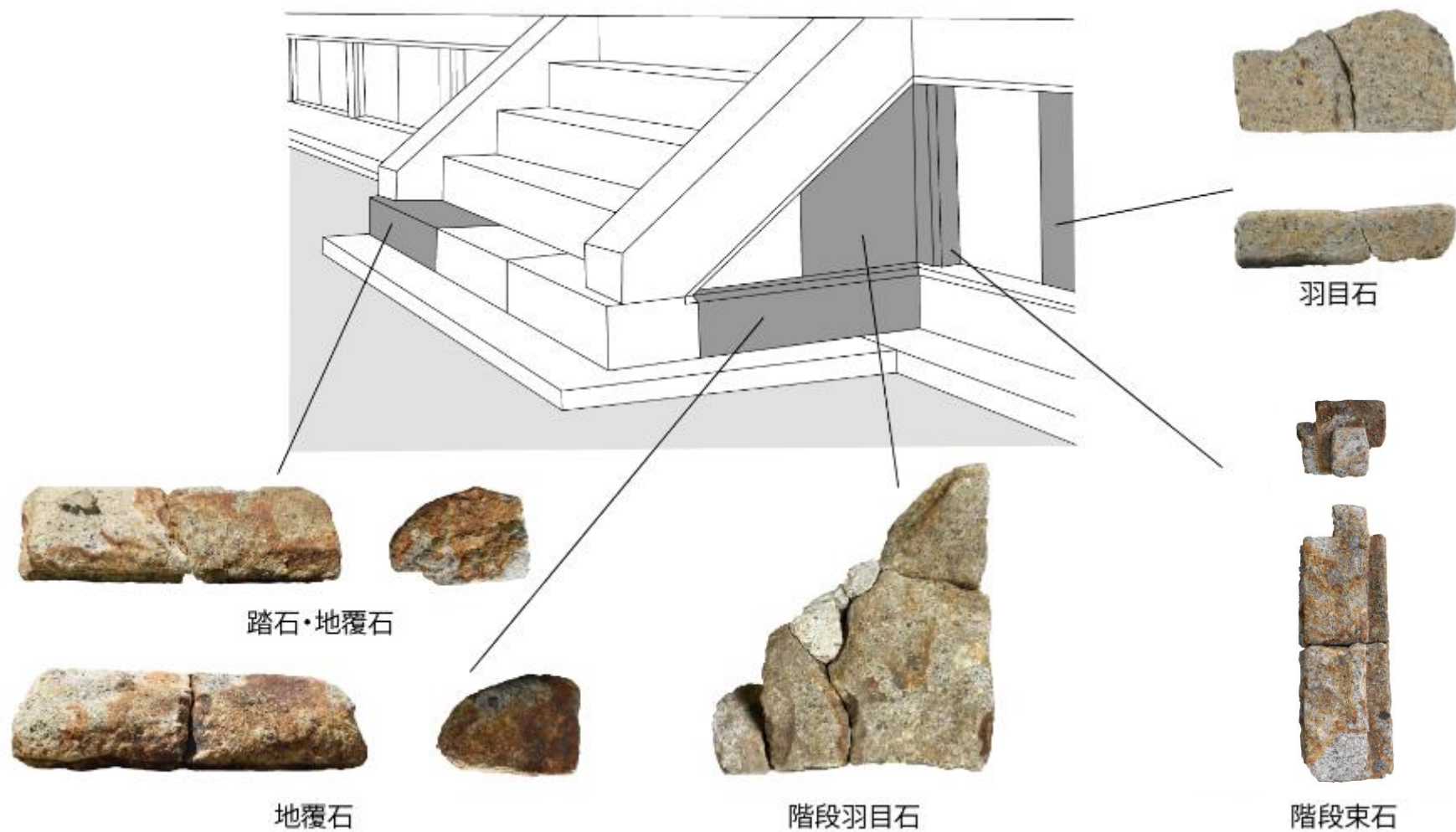
上層塔基壇東辺（東から）

# 凝灰岩切石の内容



楔状の痕跡

湧水の激しい砂層の直上で出土（南から）



## 出土部材の推定位置

(奈良文化財研究所2003『古代の官衙遺跡―遺構編』を基図に作成)



## 鳥坂寺跡 金堂基壇北面階段

(出典：柏原市教育委員会2011『鳥坂寺跡発掘調査報告書』)

# 瓦類、玉石の出土



砂層の直上に瓦を敷く（南東から）



せん  
磚



直径10cmの玉石  
基壇まわりに敷かれたものか

# 下層塔基壇の状況

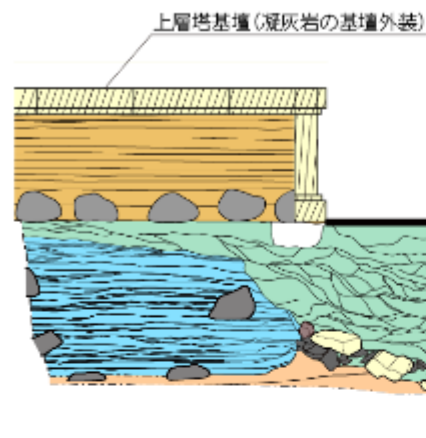


基壇縁の石列



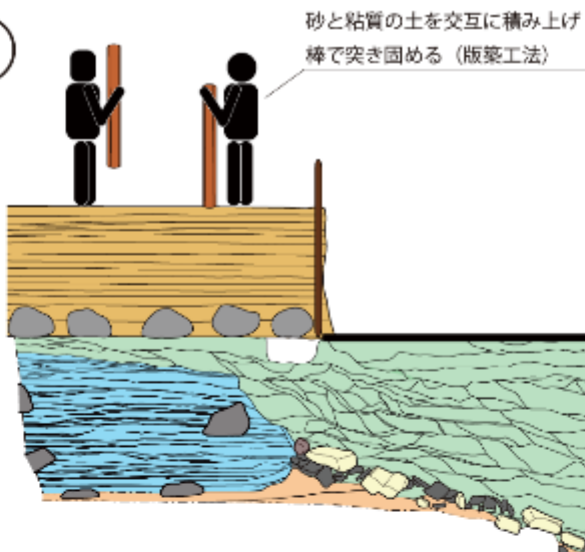
上層・下層塔基壇の堆積

⑥



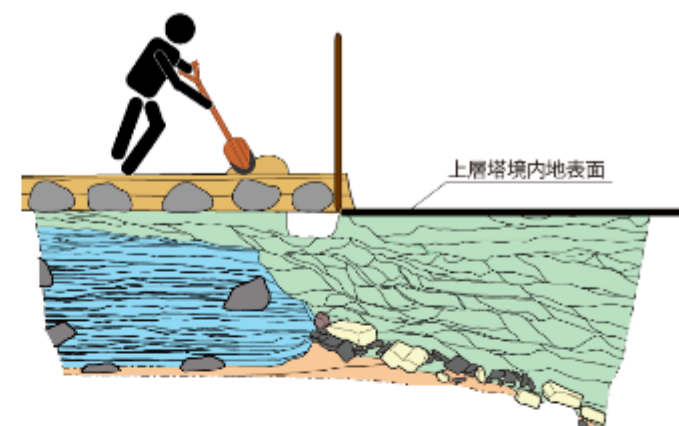
上層塔建物の完成  
基壇外装の施工完了、塔完成

⑤



上層塔基壇の築盛

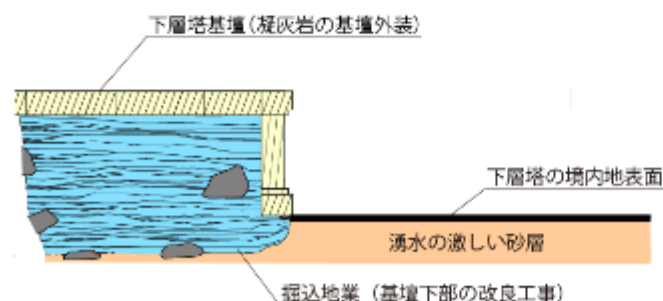
④



整地完了、基壇縁に溝掘削  
上層塔基壇の築盛開始

## 下層塔から上層塔への建替え過程推定復元

①



下層塔建立時

②



下層塔の解体、基壇外装の撤去・破碎  
上層塔建設に向けた整地の開始  
基底部の湧水対策

③



基壇を残置し、その上部に最大1.5m  
盛土を行う

# まとめ

## 1. 下層塔基壇の外側で出土した凝灰岩切石について

- 湧水の激しい砂層直上に敷かれた状態で出土
- 下層塔の基壇外装材と考えられ、階段付近に使われた部材も複数含まれる
- 上層塔（由義寺塔）建設のための整地に際し、湧水対策として基底に瓦や玉石とともに埋め込まれたものと考えられる
- 上層塔の基壇外装を復元するうえで参考となる資料が得られた

## 2. 下層塔の評価

- 諸国の国分寺に匹敵する基壇規模を有し、凝灰岩切石を使った格式高い基壇外装であることが判明
- 基壇外装の施工は塔建設の最終工程にあたるため、外装石材や基壇まわりに用いられたと考えられる埴や玉石の出土は、塔が完成していたことを示唆している

## 3. 上層塔（由義寺塔）の構築過程

- 下層塔基壇を残置したまま、その上部を最大1.5m盛土したのち、その上部に築かれていた
- 今回の調査で下層塔から上層塔への建て直しが明確となった